

# TSAG会合報告

総務省 国際戦略局 通信規格課

## 1. はじめに

2025年5月26日（月）～30日（金）まで、国際電気通信連合電気通信標準化部門（ITU-T）の電気通信標準化諮問委員会（Telecommunication Standardization Advisory Group：TSAG）がスイス・ジュネーブ（オンラインとのハイブリッド）で開催された。

今回のTSAGは、ITU-Tの2025年～2028年研究会期における初回の会合であり57の国・地域から283名（うち147名がオンライン出席）が出席し、我が国からは、主管庁である総務省とともに、日立、KDDI、NEC、NTT、NTTドコモ、NICT、OKI、TTC、日本ITU協会から計18名が出席した。

## 2. TSAG会合における主な議論と結果

### 2.1 プレナリ

プレナリでの議論トピックとして、欧州連合（EU）、EU加盟国（全27か国）より共同で、特に新興技術（AI、MV等）によるプライバシー侵害リスク等を鑑み、標準化プロセスにおける人権団体等との関係構築等を提案する寄書があり、TSBに提案内容を検討するよう要請することで合意された。

本会合において決定された今会期TSAG組織体制図を以下の図1に示す。前会期同様、WP（Working Party）が2つ設置され、各WPの下にRG（Rapporteur Group）が2つずつ設置された。WP1ではRG-WM（Working Methods）及びRG-IES（Industry Engagement and Strategic and Operational Planning）からの提案のレビューを、WP2で

はRG-WPR（Work Programme and Restructuring, SG work, SG Coordination）及びRG-DT（Sustainable Digital Transformation）からの提案のレビューを担当する。

それぞれのRG（Rapporteur Group）において行われた議論の結果は後述のとおり。

### 2.2 作業方法ラポータグループ（RG-WM；Working Methods）

RG-WMは、WTSA決議1及びITU-T勧告A.1（ITU-T SGの作業方法）を含む、ITU-Tの中核的な作業方法の見直しの検討や、WTSA-28に向けた作業方法に関するTSAGからの提案の検討及び準備について、議論の調整を行うこと等を役割とする。ラポータはGlenn Parsons氏（Ericsson, カナダ）が務める。

対象オブジェクトへの識別子の登録機能を含む勧告案を策定し、その機能を提供する登録機関（Registration Authority）を選定する必要があるSGを対象とし、それらの方法を示す、新ITU-T勧告草案A.RA（登録機関の任命及び運営）について議論が行われた。次回のTSAG会合でのDetermination（SGまたはWPにおいて勧告草案を完成とすること。Determination後、勧告承認に向けて手続きが開始される。）の可能性を鑑み、SG2, 11, 16, 21に対してコメントを求めるリエゾン文書が発出されることとなった。

また、今回中国からJoint Working Party（JWP、合同作業部会）に関する規定をより明確にするよう、勧告A.1の改訂を行うことが提案されたが、Joint RG（JRG）の方が効率的であり、そもそもJWPは不要との意見が出され、勧告A.1からJWPに関する記載を削除する方針となった。しかし、JWPについてはWTSA決議1でも明記されており、勧告A.1を参照とされていることから、WTSA-28に向けた決議1の更新案とともに整理されることとなった。

### 2.3 産業界のエンゲージメントラポータグループ（RG-IES；Industry Engagement and Strategic and Operational Planning）

RG-IESは、産業界からのITU-Tへの参画に関する検討や他の標準化団体（SDO）及びオープンソース・コミュニティ

Proposed TSAG structure and appointment for the new study period



■図1. 今会期（2025年～2028年）のTSAG組織体制



との重複を避けるための連携強化メカニズムを特定すること等を役割とする。今回、RG-IESがWTSA Preparationについても担当することになり、RG-IESのToRに追記された。ラポータはScott Mansfield氏（Ericsson、カナダ）が務める。

2024年4月にジュネーブで開催された産業界の関与強化に関するワークショップにて、ITU-Tの影響に関する認知度の低さが課題として指摘されたことを受け、今回、英国、カナダ、オーストラリアより共同で、ITU-T標準の成功事例を明確に打ち出す提案内容の寄書提出があった。本提案について合意され、各SGへ成功事例を提供することを求めるリエゾン文書が発出された。

#### 2.4 作業項目、再編、SG作業・調整ラポータグループ (RG-WPR ; Work Programme and Restructuring, SG work, SG Coordination)

RG-WPRは、作業計画及びSG構成の見直しの検討やSGからの新規または修正提案された研究課題（Question）の検討等を役割とする。ラポータは永沼美保氏（日本、NEC）が務める。

今回ロシアから、ITU-TのSGに対し、その所掌範囲を逸脱する作業項目の立上げを控え、ITUの領域外の分野（例えば、軍事関連、無人航空機（UAV）、防衛技術などの非電気通信サービス・アプリケーション）には責任を負わないよう助言するリエゾン文書の発出の提案があった。提案について合意され、ITU-Tの全SGへ前述の内容のリエゾン文書が発出された。

また、ナイジェリアから、OTT（Over-The-Top）についてのワークショップの開催のための予算確保の提案があった。本ワークショップについては、TSB局長への開催要請がWTSA-24の報告書にアクション項目として記載されており、議論の結果、TSAGはTSB局長への助言機関であり、活動に対する予算配分の権限は有していないことが明確にされ、本件についてはTSAGからTSB局長へ次の内容を助言することで合意された。

“TSB局長から理事会への報告において、WTSA-24アクション4に沿ってワークショップ開催のための予算配分を要請すること。また、その進捗をTSAGに報告すること。”

#### 2.5 ITU-TのDXに関するラポータグループ

##### (RG-DT ; Sustainable Digital Transformation)

RG-DTは、ITU-Tの持続可能なデジタルトランスフォー

メーションの達成に必要な要素の検討やITUのウェブベースツールを活用した仕組み作り等を役割とする。ラポータはAhmed Said氏（NTRA、エジプト）が務める。

主にRG-DTの新たなToRについての議論が行われ、開発途上国が必要とするITU-T勧告の補足文書（ガイドライン、技術報告書等）へのニーズを把握するため、デジタルトランスフォーメーションに関してTDAGやICG（Intersectoral Coordination Group ; セクター間調整グループ）と協力すること等が含まれた形で合意された。

### 3. その他の主だった動き

オープニングプレナリにてHyoung Jun Kim氏よりNetwork of Woman (NoW) in ITU-T副議長退任の挨拶があり、その後、壇上で尾上誠蔵TSB局長よりKim氏に感謝状が授与された。Kim氏の後任にはSG11議長のTejpal Singh氏（インド）が就任した。また、会合期間中、サイドイベントとして2025年5月27日（火）の8:00からNoW in ITU-T Networking Breakfast at TSAGが開催され、韓国の電子通信研究所（ETRI）の提供による朝食が振る舞われながらの懇談会が行われた。本イベントはジェンダーによらず参加可能であり、Doreen Bogdan-Martin事務総局長、尾上TSB局長ほか約30名が参加し意見交換が行われた。



■ 図2. Network of Woman (NoW) in ITU-Tの朝食会の様子

### 4. 今後のTSAG会合の予定

次回TSAG会合は2026年1月26日（月）～30日（金）までの5日間の日程で、ジュネーブにおいて開催される予定である。